

## 千葉県香取市における防災対策の実態

正会員 ○高野 俊英\*  
正会員 上山 肇 \*\*

防災対策 水防 自助・共助  
記念碑等 香取市

## 1. はじめに

2011年3月11日の東日本大震災では、関東地方の多くの自治体が震度5強の地震を記録し、東京湾岸の埋め立てた地域は液状化による甚大な被害を被った。また、太平洋沿岸の地域は津波による被害を出した。

今回、防災対策の調査対象とした千葉県香取市でも、東日本大震災で建物や道路、河川等に被害を被ったが津波の被害はなかった。

本稿では、東日本大震災後、進められている同市の防災対策の実態を探ることを目的とする。

## 2. 香取市の概要

香取市は、都心から約70km、成田空港から約15kmの千葉県北東部に位置している(図1)。

2006年3月27日、旧佐原市、旧小見川町、旧山田町、旧栗源町の1市3町が合併して誕生した面積262.35km<sup>2</sup>、人口約7万8千人(2017年3月1日現在)の自治体である。

また、北部には東西に利根川が流れており、水と緑に囲まれた自然と歴史・文化に彩られたまちである。



図1 千葉県香取市の位置 (出典：香取市 HP)

JR 香取駅のある佐原地区は、かつて舟運で栄えたまちで、日本全国を測量して実測日本地図を作製した「伊能忠敬」の旧宅や、江戸時代から昭和の初期までの商家や土蔵が保存されている「重要伝統的建造物群保存地区」(以下、「保存地区」)の古いまち並みがある。

これらは市の重要な観光資源として、同市の活性化

に寄与している。

なお、香取市は東日本大震災で小野川の下流域が液状化により被災したが、上・中流域に位置する「保存地区」の被災は小さかった。すでに被災から6年を経過しており被災の痕跡も消えて、地域の住民から震災の記憶が薄れていくことが防災上危惧されている。

## 3. 調査の方法

- 1) 調査時期：2016年10月7日(金)
- 2) ヒアリング調査とフィールドワーク

香取市役所のヒアリングは、香取市企画政策課長及び企画政策課・市民協働課の担当者に行った。フィールドワークは佐原地区で行った。

## 3) 事前の質問事項について

香取市に、事前にヒアリング調査の質問事項として次の2件を提出した。

- (1) 香取市の防災対策について
- (2) 防災教育等に資する「記念碑等」<sup>注1)</sup>(石碑、災害資料、資料館等)の有無とその活用について

## 4. 香取市の防災対策のヒアリング

事前の質問事項の香取市の防災教育等に資する「記念碑等」の有無については、防災教育に資する「記念碑等」に該当するものは同市にはない旨の回答があった。

しかし、同市は東日本大震災の復興の記録として被災当時の写真をホームページで公開している(写真1, 2)。



写真1 崩壊した護岸  
(出典：香取市 HP)

写真2 崩れた屋根瓦  
(出典：香取市 HP)

また、香取市の利根川沿いにある道の駅・川の駅「水郷さわら」の2階のイベントスペースにおいて、国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所が利根川の治水に関するパネル展示を行っている。

#### 4-1. 水防対策における住民組織について

避難所となる小学校区の単位で組織している「住民自治協議会」が、香取市の「まちづくり条例」において市民協働による「住みやすい地域」、「魅力ある地域づくり」という活動を自発的に進めていくための仕組みの中心になっている。

その役割等は、地域の防災計画に位置付ける自主防災組織、自治会、住民自治協議会との関係(役割)の調整を図り、「住民自治協議会」が包括的に住民の防災活動における調整責任を果たしていることが分かった。

#### 4-2. 水防対策ヒアリングとその課題について

現在、水郷佐原の小野川沿いの古いまち並みの景観(写真3)の保全に取り組む香取市では、水害を最も懸念している。そのため、同市の防災対策のメインは水防対策でその課題等については次のとおりである。

- 1) 同市の市域には利根川と霞ヶ浦(常陸利根川)が流れており、近年の豪雨による大規模洪水に対する住民避難の対策が急務であること。
- 2) 1級河川の小野川、黒部川が市街地を中心に流れており、利根川等の大規模洪水のみならず、内水氾濫の対策も重要であること。
- 3) 古い建物の耐震補強などハードの対策の他、住民の避難勧告や指示発令に関する基準の明確化などソフトの対策での体制づくりも課題であること。
- 4) ゲリラ豪雨等短期集中型災害に対する迅速対応についても現在まだその体制が整備されていないこと。



写真3 小野川沿いの佐原の古いまち並み(筆者撮影)

#### 4-3. 4-2の個々の課題に対する取り組みの結果

- 1) 古い建物の耐震補強の課題では、古い建物を耐震補強

したモデルを市民に公開することで、古いまち並みを災害から守る建物の耐震補強計画の推進は、2011年の東日本大震災で一旦中断を余儀なくされたが、現在、被災建物などの修復を終えたことから、改めて地震等に備えたまち並みの保存のため建物の耐震補強を推進している。

2) ゲリラ豪雨等短期集中型災害に対する迅速対応では、市民に行政の限界を認識してもらい、市民の減災に関する自助・共助についての理解を求めていくこととし、豪雨情報の住民周知の方法等については検討中である。

#### 3) 減災に資する自助・共助について

調査当日「佐原の大祭」が行われていたが、佐原の各地区で継承されてきた伝統の山車を住民総出で曳くこの祭礼は、地域住民の絆を強める一助となり、上記2)の短期集中型災害時迅速対応の限界に対処するために自助・共助を目指す防災コミュニティ<sup>注2)</sup>づくりに寄与していた。

なお、「佐原の山車」は、2016年12月1日ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録され、まちの活性化等に寄与することが期待される。

## 5. おわりに

今回の調査で、観光や祭礼による地域の活性化等を図る同市が、近年頻発する豪雨等に対して、住民と文化財等を守るために水防体制の整備を最重要課題として位置づけ取り組んでいることが分かった。

また、調査の最後に訪れた、香取市内の利根川沿いの道の駅・川の駅「水郷さわら」の2階で、国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所が主催する「利根川を知ろう」と題する市民に対する防災教育や水防の啓発に資する展示が同市における「記念碑等」の役割を果たしていることが分かった。

#### 【注釈】

注1) 本稿で「記念碑等」とは、石碑、記念碑、慰霊碑、モニュメント、災害記録、災害資料館、遺構等を指す。

注2) 町会等の住民が主体的に防災活動を行う自主防災組織などのコミュニティを指す。

#### 【参考・引用文献】

- 1) 香取市「香取市市民共同指針(かたりの風)」概要版
- 2) 香取市「住民自治協議会」ヒアリング時配布資料
- 3) 香取市ホームページ「被災・復興の記録」
- 4) 2016年度法政大学大学院政策創造研究科プログラム横断型プロジェクト研究成果報告書 pp. 69-79

\*法政大学大学院 政策創造研究科 修士(社会デザイン学)

\*\*法政大学大学院 政策創造研究科 教授

博士(工学)、博士(政策学)

\*Graduate Student, Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Mr. of Business Administration in Social Design Studies

\*\* Hosei Graduate School of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.